

プリン山再生特別委員会
子ども達のデザイン・アイデアを経た実施案

2021年7月28日
プリン山再生事務局

7月19日の提案/調査から

□子ども達のアイデアから

子ども達が色々と考えてくれたデザインやアイデアは、幾つかの傾向が見受けられました。

1. 縦の土管は「封鎖」が多く、トランポリンやドーム型/チェリー型などで覆うパターンがそれに次ぐ形であり、植木やパラソル、土管電話などは少数となりました。従前にHPなどで提案していた植木やパラソルが少なかったことから、象徴的な場所というよりは、危険な場所と認識した子どもの方が多かったように思います。
2. 横の土管は現状の上（縦の土管）に抜けるルートとは別の、違う抜け穴を作る提案が多く、裏側や階段側へ抜けるものでした。
3. プリン山の表面（校庭側）デザインでは、プリンのように綺麗に塗装するパターンが大半でした。
4. 階段をスロープにして、滑り台にする提案も多かったです。
5. 雲梯（うんてい）部分は、ネットを張って、雲梯として使うよりは、ジャングルジムの的に使う方向が多かったです。
6. プリン山の裏面（道路側）には、ベンチと黒板などの設置が数件ありました。

□再度の現地調査/業者ヒアリングから

上記から再度現地調査を行い、その結果計画のポイントが見えてきました

- a. プリン山や雲梯の高さ関係からすると、現在のプリン山は当初のものより、およそ30cmほど埋没していることが分かり、校庭内で一番低い位置にあることが分かりました。つまり雨が降ると校庭全体の水がプリン山の横の土管に入り込んでおり、改善するには、校庭全体のレベルを下げるなど、大規模な排水工事が必要となることが分かりました。
- b. プリン山自体の施工図面がなく、構造が全く分からないので、新たに横穴を貫通させたり、滑り台などをのせた場合や、構築物を固定（アンカー）させるには、非破壊検査などで中身を知る必要があり、コスト面でもかなり肥大化する可能性があります。
- c. ネットを扱う業者にヒアリングをした結果、子ども達が安全に遊べるネットを張るためには、雲梯部分の基礎形状、鉄の肉厚（サビなどによる劣化の有無）調査をした上で、さらにデザインによって、かなり高額になる旨、返答がありました。

0728実施案：土管について

□土管について

1. 縦の土管

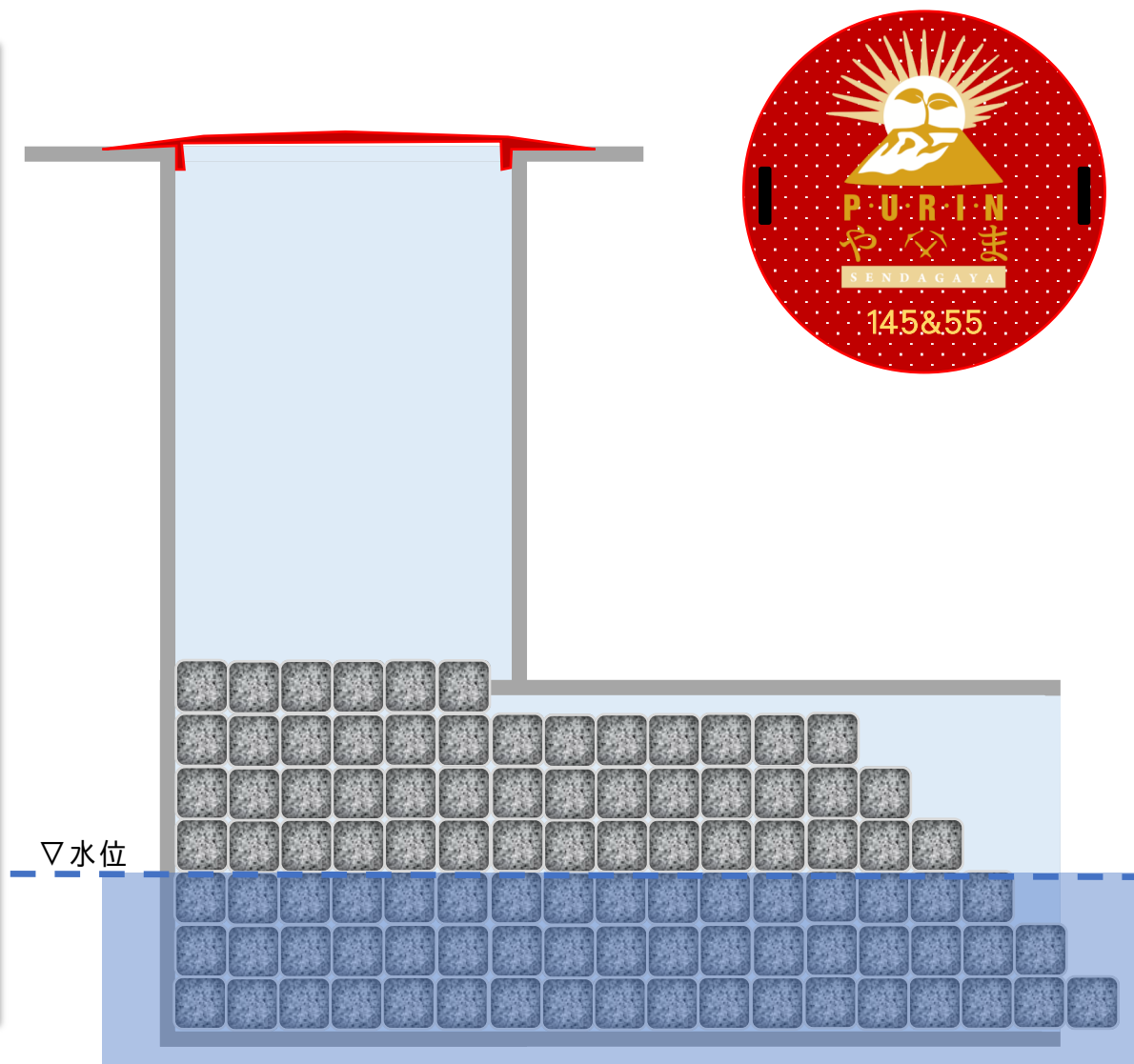
- 安全を最優先するため、上蓋を作って穴をふさぐ
- 連結した横の土管の水は防ぎようがないので、上からの水を止める必要はなく、あくまでバタつかず、メンテナンスフリーな素材（鋳物/鉄板/アルミなど）を使った上蓋にする
- 上蓋はオリジナルで作ればなお良い
- 穴の周りの手すりは切断撤去する

2. 横の土管

- ピンコロ石（10cm角）で完全に埋める
- 水の流入は防ぎようがないので、石で埋めることにより、水は入っても落ち葉やゴミが入ることはなく、清掃も容易になる
- 石は腐らず、錆びない。また不要になれば撤去することが可能で、後々に何かできる可能性を残すことができる

3. 石を埋める深さ

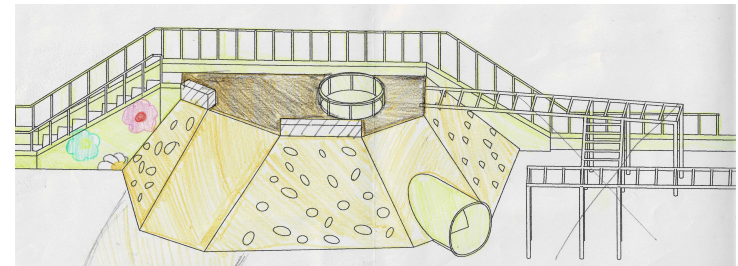
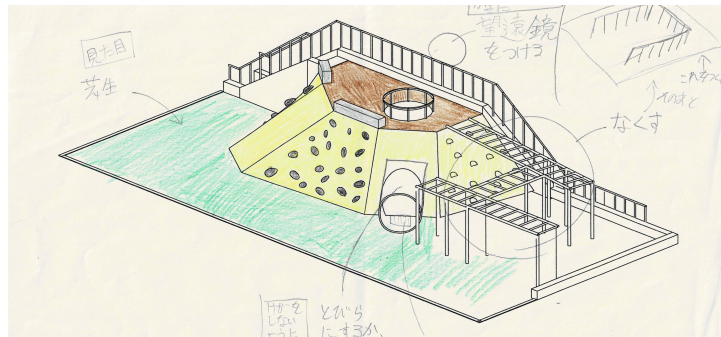
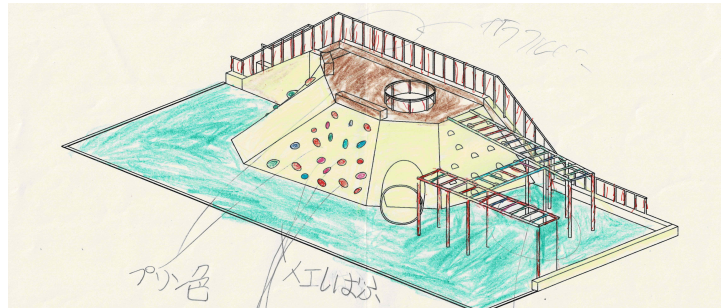
- 横の土管は完全に埋める、その高さまで石で埋めることにし、縦の土管は空間を残す
- 蓋は開閉可能で、タイムカプセルを保管したり、別の使い方を模索する可能性を残すことができる



0728実施案：校庭側の塗装について

□デザイン：校庭側の塗装について

子ども達のデザインでも、プリンにイメージした、明るい色の彩色が中心といえます。木々の中でも、存在感のある彩色を心がけたいと思います。

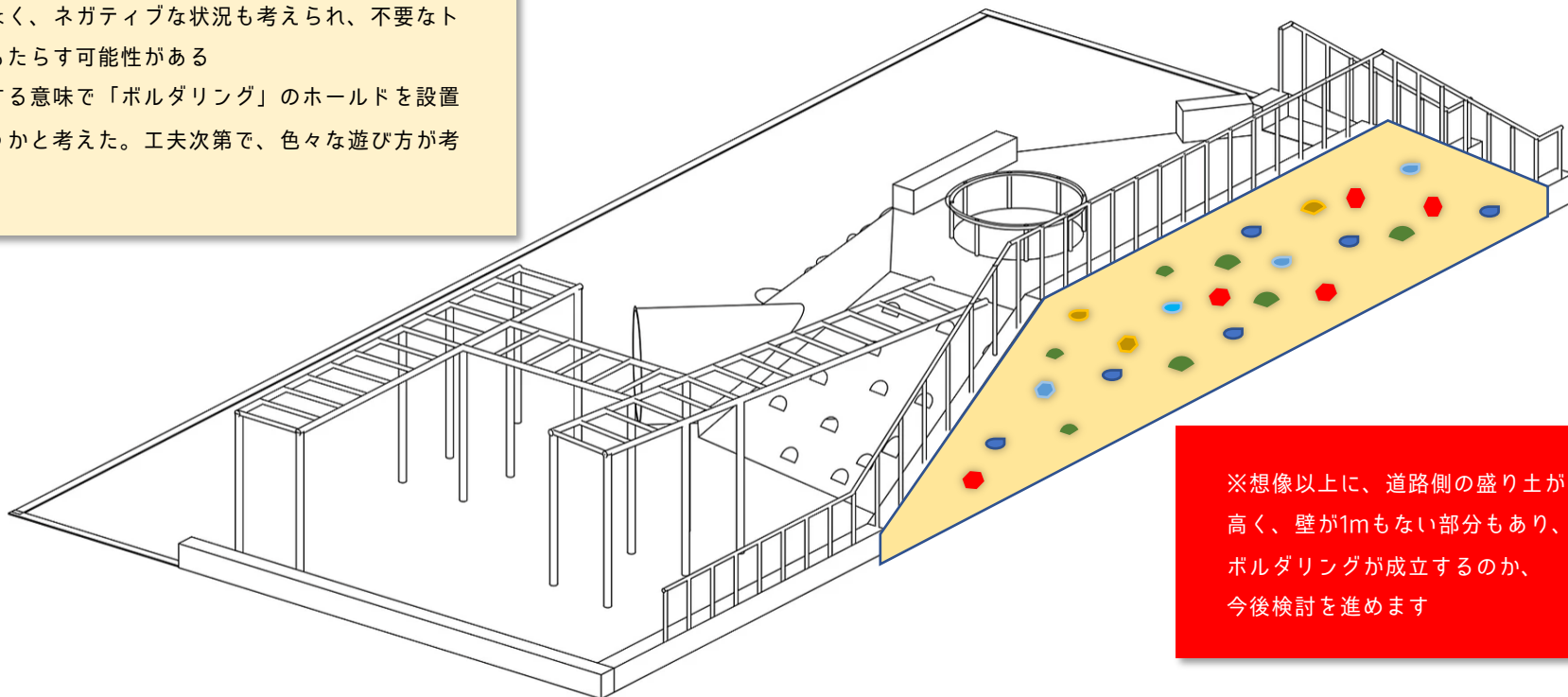
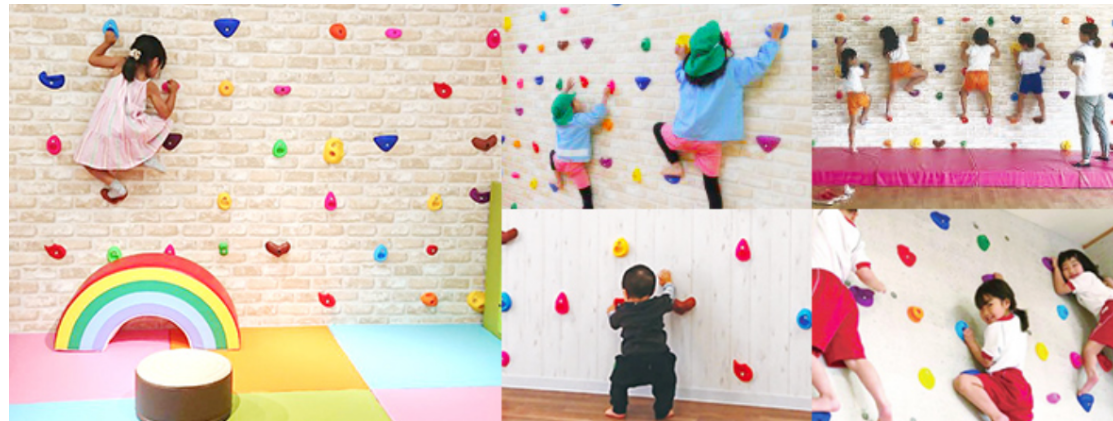


0728実施案：道路側について

□道路側について

ベンチや黒板などの設置要望が数件ありましたが、子ども達のアイディアは、かなり遊び場として捉えており、道路側も遊べる空間にすべきと考えました。

- ベンチについては本体に固定する形ではなく、独立した個別のものを設置する方法でも対応でき、かつ素材によって腐食した場合でも、自由に取り替えるので、設置する場合は、独立したものを置く方法が良い
- 黒板や何か描けるボードを設置した場合、好意的な落書きだけでなく、ネガティブな状況も考えられ、不要なトラブルをもたらす可能性がある
- 遊びに徹する意味で「ボルダリング」のホールドを設置してはどうかと考えた。工夫次第で、色々な遊び方が考えられる



※想像以上に、道路側の盛り土が高く、壁が1mもない部分もあり、ボルダリングが成立するのか、今後検討を進めます